

■大学院 文学研究科 日本文化専攻

| 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>【修士課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。</p> <p>（教育内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日本文化における多面性や独自性など諸問題について総合的に把握するため、「講義科目」を配置する。</li> <li>2. 「講義科目」のうちから、個別の専門分野以外の他分野の日本文化に関する8科目16単位以上を修得しなければならない。また、日本文化以外の、文学研究科内の地域社会システム専攻や欧米文化専攻や他研究科に関する科目も4単位8単位まで取得可能とする。</li> <li>3. 日本歴史、日本語学、日本文学など、個別の各専門分野を総合した日本文化の研究方法を修得できるように、「日本文化研究方法論」を必修科目として配置する。</li> <li>4. 大学院生が修士論文の作成に必要な専門的知識、史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究方法を修得できるように、各分野の専修科目において、専門的講義2科目4単位、演習2科目8単位を配置する。</li> <li>5. 中等教育機関の教員や博物館学芸員などの専門職や博士後期課程に進学できる人材の養成を目指す。</li> </ol> <p>（教育方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義科目では、修士論文作成に必要な専門的知識の習得を目的とし、講義形式の方法を採用する。</li> <li>2. 演習科目では、修士論文作成に必要な史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究能力を向上させるため、史資料・文献講読、研究発表、相互議論を取り入れた演習を採用する。</li> <li>3. 指導教授が、修士論文作成に必要な専門的知識、史資料や文献の読解などの専門的研究技能、および思考力や分析力などの専門的研究能力の習得・向上のために、個別具体的な研究指導や論文執筆・発表の方法指導を行う。</li> <li>4. 日本文化専攻を含めた文学研究科全体の中で研究発表の場を設け、指導教員以外の教員や専門分野以外の大学院生を含めた、研究議論を行う。</li> </ol> <p>（学修成果の評価）</p> <p>文学研究科日本文化専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育課程（メソ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。</li> <li>2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。</li> </ol> |
| <p>【博士後期課程】</p> <p>文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。</p> <p>（教育内容）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 修士課程における日本文化に関する専門的な研究知識、研究技能、研究能力を基としつつ、博士論文作成に必要な高度で専門的な研究知識、史資料や文献読解などの研究技能、および思考力や分析力などの研究能力のさらなる向上を目指して、専門分野に関わる必修の専修科目の「日本文化特殊研究」4単位および「研究演習」4単位を配置し、研究指導を行う。</li> <li>2. 専門分野の研究を広い視野をもって深めるため、指導教員が指導によって、専門分野に関わる専修科目以外の専門科目を修得可能とする。</li> <li>3. 高等教育機関や研究機関の教育研究職員や博物館学芸員などの専門職の養成を目指す。</li> </ol> <p>（教育方法）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 講義科目では、博士論文作成に必要なさらに高度な専門的知識の習得を目的とし、講義形式の方法を採用する。</li> <li>2. 演習科目では、博士論文作成に必要な史資料や文献の読解などのさらに高度な専門的研究技能、および思考力や分析力などのさらに高度な専門的研究能力を向上させるため、史資料・文献講読、研究発表、相互議論を取り入れた演習を採用する。</li> <li>3. 指導教授が、博士論文作成に必要な高度な専門的知識、史資料や文献の読解などの高度な専門的研究技能、および思考力や分析力などの高度な専門的研究能力のさらなる習得・向上のために、個別具体的な研究指導や論文執筆・発表の方法指導を行う。</li> <li>4. 日本文化専攻を含めた文学研究科全体の中で研究発表の場を設け、指導教員以外の教員、専門分野以外の大学院生を含めたさらに高度な研究議論を行う。</li> </ol> <p>（学修成果の評価）</p> <p>文学研究科日本文化専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

## 愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。

### ■大学院 文学研究科 地域社会システム専攻

#### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

##### 【修士課程】

文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

##### （教育内容）

1. 社会学及び地理学を主たる構成要素として地域社会について多面的、実証的に分析し、地域社会の具体的諸課題の解決と地域社会のあり方をシステムとして複合的、総合的に構想し、実践的に取り組むことのできる専門的な能力を養成するため、「講義科目」を配置する。
2. 地域社会をシステムとして体系的総合的に認識するために、「地域社会システム研究方法論」を必修科目として配置する。
3. 学生が修士論文の作成について必要な知識や技能を修得できるように、各分野の専修科目において、専門的講義4単位、演習8単位を配置する。

##### （教育方法）

1. 講義科目では、地域社会の構造と変動過程に関する体系的、総合的な理解を得ることを目的とし、講義を踏まえた集団的討論の方法を採用する。
2. 演習科目では、地域社会に関する専門的研究能力を向上させるため、自主的研究とその発表を取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、研究課題の発見、研究作業の進め方に関する研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

##### （学修成果の評価）

文学研究科地域社会システム専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。

##### 【博士後期課程】

文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

##### （教育内容）

1. 地域社会システム論における高度の専門知識を修得するため、専修科目の「地域社会システム特殊研究」を配置する。
2. 修士課程における高度な専門的能力を基礎として、さらに研究的、独創的な研究能力を育成するために、必修の専修科目の「特殊研究」4単位及び「研究演習」4単位を配置する。
3. 高度の学術論文を執筆するための研究指導を行う。

##### （教育方法）

1. 講義科目では、地域社会の構造と変動過程に関する高度な専門知識を得ることを目的とし、講義を踏まえた集団的討論の方法を採用する。
2. 演習科目では、地域社会に関する専門的研究能力を修士課程を越えてさらに向上させるため、自主的研究とその発表を取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、高度の学術論文を準備するための研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

##### （学修成果の評価）

文学研究科地域社会システム専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価

# 愛知大学 3つのポリシー（2024年度以降）

分布、授業評価アンケートにより行います。

## ■大学院 文学研究科 欧米文化専攻

### 教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）

#### 【修士課程】

文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

#### （教育内容）

1. 学生達に思想、文学、言語学の各分野に関する専門的知識と幅広い知識を授け、常に知的好奇心を以て研究に取り組む姿勢を涵養しなければならない。そのために多岐にわたる系統的な「講義科目」を配置する。
2. 専門的知識ばかりに偏ることなく、関連分野の広範な知識をも体得して客観的視野を広げ、研究に幅と客観性をもたらすべく他専攻の科目の履修を認める。
3. 修士論文の執筆に向けて研究の仕方の基本を学ぶことができるように、「欧米文化研究方法論」を1年次の必修科目として配置する。
4. 学生の研究指導に当たっては、指導教授のほかに副指導教授を置くことで、異なった視点からの指導を推進し、学生の研究の視野を広げ豊かにする。
5. 必修と選択の科目の履修以外に、自国の歴史的文化に関する自主的学習を合わせて行うことを推奨し、自己の立脚点を堅固なものとすることで、欧米文化を一層深く探求できる指導体制を取る。

#### （教育方法）

1. 講義科目では、研究のための基礎的な能力の習得を目的として、高度な専門的知識の伝授を、質疑応答を活発に行うことによって、効率的に遂行する。
2. 演習科目では、それぞれの院生の専門的研究を自主的に遂行していく能力を向上させるため、文献精読と討論を取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、それぞれの分野の研究状況への適用力を持った研究能力を身に付けさせるような、研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

#### （学修成果の評価）

文学研究科欧米文化専攻（修士課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づき、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、修士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布により行います。

#### 【博士後期課程】

文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げた資質、能力及び知識を修得させるために、以下の内容、方法等に基づき、カリキュラムを体系的に編成し、実施します。

#### （教育内容）

1. 欧米文化関連書学における高度な研究を独自に展開していくための能力を習得するため、専門科目の「欧米文化研究方法論」を配置する
2. 思想、文学、言語学の各分野において、修士課程での研究の深化と、関連の教養的知識の蓄積を前提にして、さらに高度な専門知識を教授し、きめ細やかな指導の下に論文作成への手引きをする体制を整えることから、必修の専修科目の「特殊研究」4単位及び「研究演習」4単位を配置する。
3. 欧米文化関連諸学の高度な研究を、専門的に、かつ関連諸学科との連携も視野に収める形で遂行するための研究指導を行う。
4. 一見類似したものの中に相違を、一見遠い関係のものの中に近似性を認知できるような批評精神を、専門分野以外の事柄にも及び広汎な探求を通して養成する。

#### （教育方法）

1. 講義科目では、修士課程での知識獲得と研究の蓄積を前提にして研究のためのより高次のかつ応用的な習得を目的として、高度な専門的知識の伝授を、質疑応答を活発に行うことによって、効率的に遂行する。
2. 演習科目では、修士課程での知識獲得と研究の蓄積を前提にしてそれぞれの院生の専門的研究をより高次に応用的な形で自主的に遂行していく能力を向上させるため、文献精読と討論を取り入れた演習を採用する。
3. 指導教授が、それぞれの分野の現在進行形の研究状況への適用力と高度な応用能力を持った研究能力を身に付けさせるような、研究指導や論文執筆・発表の指導を行う。

#### （学修成果の評価）

文学研究科欧米文化専攻（博士後期課程）では、本学における学修成果の評価方針（アセスメントポリシー）に基づ

## 愛知大学 3つのポリシー（2024 年度以降）

き、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に示す学修目標の達成状況を把握するため、以下の方法により、検証・評価を行います。

1. 教育課程（メゾ）での評価は、学修成果アンケート、単位取得状況、学位取得率、留年率、中間発表会、博士論文及び口述試験の成果評価割合等により行います。
2. 授業科目（ミクロ）での評価は、シラバス「成績評価の方法と基準」で明示した基準に基づいて、各科目の成績評価分布、授業評価アンケートにより行います。